

心臓血管外科

広島市、広島県北部地域の心臓血管外科疾患の診療に全力で当たらせて頂きます

【患者さま一人ひとりに最善の標準手術を提供】

1980年の開院ですが、心大血管手術は3000例を超えました。成人を対象とした虚血性心疾患、弁膜症、大動脈疾患および末梢血管疾患と多岐に渡る心臓血管手術を行っています。

併存疾患や多くの合併症を抱えておられる高齢者の患者さまが増加傾向です。多くの診療科を有する総合病院として循環器疾患のみならず、他科とのスムーズな協力体制で、患者様個々人のライフステージをサポートする治療を心がけております。

【弁膜症】

僧帽弁疾患に関しては、人工弁を用いない弁形成術を第一選択としています。胸骨を切開しない小切開手術(MICS)も導入しており、大動脈弁疾患・僧帽弁疾患・三尖弁疾患に対して行っています。大動脈弁狭窄症に対しては、従来の開胸下大動脈弁置換術に加えて、開胸手術が適応とならないご高齢またハイリスクの方には昨年から導入した経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI)も施行しております。TAVIの症例数も順調に増えており、安全に導入が進んでいます。また、大動脈基部及び大動脈弁疾患に対しては、弁形成術や自己弁温存基部置換術なども施行しております。

【冠動脈疾患】

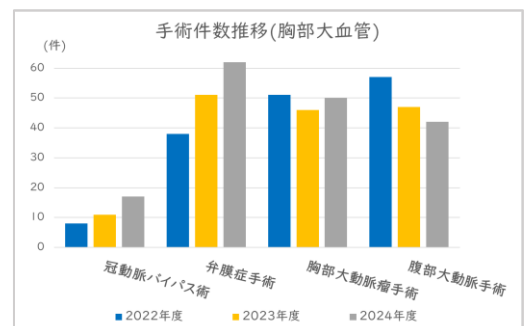
カテーテル治療が進歩し、手術件数は多くはありません。一度にすべての病変の治療ができる点、将来の心筋梗塞回避などの利点から、循環器内科とのハートチームでの検討上、カテーテル治療と冠動脈バイパス術の適応を判断しています。グラフトの長期開存から動脈グラフトを積極的に用い、また合併症軽減の観点から症例によっては心拍動下冠動脈バイパス術を行っています。

【大動脈疾患】

胸部大動脈疾患(胸部大動脈瘤、大動脈解離)に対しては、30年以上前に世界に先駆けて発明されたオープンス Tent 法を開発当初から診療に導入してきた歴史的経緯があり、今現在も多くの患者様の治療に使用しております。侵襲が大きいと言われる胸部大動脈手術において、手術時間及び循環停止時間の短縮、神経障害の軽減などの利点が報告されています。従来大きな開胸手術が必要であった大動脈瘤の手術は、解剖学的条件が許せば、胸部大動脈ステントグラフト内挿術が可能であります。出血量も少なく、入院期間も短い手術が可能であり、開胸手術ができないご高齢の方にも施行可能です。腹部大動脈瘤の治療は、従来の開腹手術もステントグラフト治療も行っております。特にステントグラフト手術は超高齢といわれる年齢層の方でも選択な治療です。

【主要手術件数の推移】

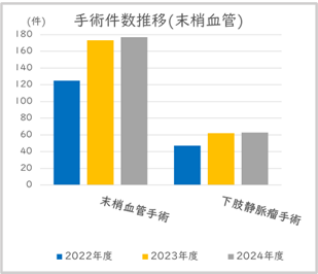
	2022年	2023年	2024年
冠動脈バイパス術	8	11	17
うち 心拍動下手術	(2)	(1)	(3)
弁膜症手術	38	51	62
うち 僧帽弁形成術	(16)	(22)	(10)
胸部大動脈瘤手術	51	46	50
うち ステントグラフト治療	(15)	(14)	(19)
腹部大動脈手術	57	47	42
うち ステントグラフト治療	(40)	(26)	(25)



【末梢血管疾患】

下肢閉塞性動脈硬化症に対して、バイパス術や血栓除去術など血行再建治療を行っており、内科と協力したカテーテル手術を同時に行うハイブリッド手術も件数が増えています。近隣の透析施設からのご紹介を中心に、透析関連のシャントの修復や新規造設手術も行っております。

下肢静脈瘤手術は、日帰り・入院（1泊2日）のどちらの治療も選択可能です。1000症例は超えましたが、コツコツと症例を重ねております。



【スタッフ紹介】

- かたやま あきら

▶ 片山 暁 (H8年卒)

○役職:主任部長

○専門:成人心臓血管外科(特に冠動脈・弁膜症・胸部大動脈)/腹部末梢血管外科
- あらかわ み わ

▶ 荒川 三和 (H14年卒)

○役職:部長

○専門:成人心臓血管外科/腹部末梢血管外科/リンパ/静脈疾患
- たちばな ひとし

▶ 橘 仁志 (H22年卒)

○役職:医師

○専門:成人心臓血管外科(特に冠動脈・弁膜症・胸部大動脈)/腹部末梢血管外科
- おおした まよ

▶ 大下 真代 (H25年卒)

○役職:医師

○専門:成人心臓血管外科(特に冠動脈・弁膜症・胸部大動脈)/腹部末梢血管外科

外来診療担当	月	火	水	木	金
1 診	片山	荒川 (下肢静脈瘤)	片山	荒川 (手術日休診)	片山
2 診	橘	-	-	-	大下

※緊急手術のため代診の場合があります

【連携のお願い】

当院では麻酔科医1名常駐、1名待機にて緊急手術体制を整えており、平日日中でも手術室に常に空き部屋を確保しており24時間365日体制で緊急手術を受け入れております。

今年度も同様の体制で広島市、広島県北部地域の心臓血管外科疾患の診療に全力で当たらせて頂きます。



▲心臓血管外科ページ



左から 橘 片山 荒川 大下